

2021 年度 個人研究実績・成果報告書

2022 年 4 月 12 日

所属	基盤教育機構	職名	専任講師	氏名	藤野 和樹
研究課題	大学体育バドミントン授業における競技経験別指導法の開発				
研究キーワード	技能上達、動作分析	当年度計画に対する達成度	2.順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が達成できた		
関連するSDGs項目	3. すべての人に健康と福祉を	4. 質の高い教育をみんなに	該当なし	該当なし	
<p>1. 研究成果の概要</p> <p>大学体育バドミントン授業受講者におけるオーバーヘッドストロークの動作分析を行った。側方から撮影した動作をもとに、インパクト時の手関節角度、肘関節角度、肩関節角度を算出した。関節角度について競技経験別に一元配置分散分析をおこなった。その結果、競技経験によって異なる動作様式であることが明らかとなった。今後は後方から撮影した動作分析を行なっていく予定である。</p> <p>2. 著書・論文・学会発表等（査読の有無及び海外研究機関等の研究者との国際共著論文がある場合は必ず記載）</p> <p>【論文（査読あり）】【著書・論文（査読なし）】</p> <p>本年度なし</p> <p>【学会発表等】</p> <p>ADDIE モデルに基づき改善された大学体育バドミントン授業が受講者の主観的恩恵に及ぼす効果, 藤野和樹・木内敦詞・八田直紀・升佑二郎・林直樹, 日本体育・スポーツ・健康学会第 71 回大会, 2021 年 9 月, オンライン開催</p> <p>ディプロマ・ポリシーに基づいた大学体育バドミントン授業が受講者の学修成果に及ぼす影響-計量テキスト分析を用いた授業評価-, 藤野和樹・八田直紀, 日本バドミントン学会第 5 回大会, 2022 年 3 月, オンライン開催</p> <p>EdTech を活用した教養体育実技の授業-無料スマホアプリを用いた事前学習の効果-, 藤野和樹, 第 28 回大学教育研究フォーラム, 2022 年 3 月, オンライン開催</p> <p>3. 主な経費</p> <p>学会年会費, 学会参加費において使用した。</p> <p>4. その他の特筆すべき事項（表彰、研究資金の受入状況等）</p> <p>【その他の活動】</p> <p>日本バドミントン学会 理事（総務委員会委員長, 研究推進委員会委員長）</p> <p>「大学体育スポーツ学研究」編集委員, 幹事補佐</p> <p>第 10 回大学体育スポーツ研究フォーラム実行委員</p>					
(本文は2ページ以内にまとめること)					